

令和7年度 第3回 新潟市交通安全対策会議 会議録

開催日時	令和8年3月25日（水）午後2時00分～午後2時55分
場 所	新潟市役所 本館3階 対策室
出席者	別紙「新潟市交通安全対策会議出席者名簿」のとおり
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 会議内容</p> <p>□ 事務局（市民生活課 安心・安全推進室 室長 吉井 崇）</p> <p>委員の出欠状況をご報告します。資料2の出席者名簿をご覧ください。 会長・委員・特別委員14名の方にご出席をいただいております。 本会議は「新潟市附属機関等に関する指針」により公開とさせていただきます。 会議録作成の関係から、会議内容を録音させていただきますことをご了承願います。 それでは、会議に移ります。 本来ですと会長である市長が議長を務めることとなっておりますが、本日は会長が所用により欠席のため、市民生活部長が議長を務めさせていただきます。 それでは、斉藤部長お願いします。</p> <p>□ 議長（市民生活部 部長 斉藤 淑子）</p> <p>会長の代理で議長を務めさせていただきます市民生活部長の斉藤と申します。 本日は年度末の大変お忙しい中、本会議にご出席いただきありがとうございます。 また、平素より新潟市の交通安全施策の推進に、ご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。 本日は、第11新潟市交通安全計画の評価、第12次計画の最終案について事務局から説明後、計画についてご承認をいただきたいと考えております。 それでは、次第に従いまして「2 議題 第11次新潟市交通安全計画の評価について」に進みます。 事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>□ 事務局（市民生活課 安心・安全推進室 主査 小山 勉）</p> <p>第11次新潟市交通安全計画の評価についてご説明いたします。 お手元の資料4をご覧ください。 第11次新潟市交通安全計画の計画期間は、令和3年から令和7年の5年間で、交通事故死者数を60人以下、交通事故重傷者数を1,035人以下にする</p>

	<p>という目標を掲げました。</p> <p>そして重点課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の交通事故防止 ・歩行者の安全確保及び自転車の安全利用の推進 ・シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底 ・飲酒運転の根絶 <p>の4点とし、各種取組を行いました。</p> <p>資料にある目標欄及び実績・評価欄を上から順にご覧ください。</p> <p>まず、年間の交通事故死者についてですが、令和3年に10人、令和4年に16人、令和5年に12人、令和6年に12人、令和7年に8人という状況でした。令和4年に大きく増加に転じたものの、期間中合計58名で目標を達成することができました。</p> <p>続いて、重傷者数については、令和3年176人、令和4年185人、令和5年184人、令和6年188人、令和7年197人と期間最終年に大きく増加したものの、期間中の重傷者数は合計930人と目標を達成することができました。</p> <p>交通事故全体の件数、死者数、負傷者数は年々減少傾向にありますが、計画期間の平均でみると、毎年平均11.6人の方が交通事故で亡くなっており、今後とも一層の対策が必要です。</p> <p>次に、重点課題別評価についてです。</p> <p>まず(1) 高齢者の交通事故防止 についてですが、交通事故死者に占める高齢者の割合は平成17年から20年連続で5割を超えております。一方、高齢者が加害者となる事故の割合も増加傾向となっております。</p> <p>今後、全人口に占める高齢者の割合は増えていきますので、今後も被害・加害両面から高齢者の交通事故防止について一層の対策です。</p> <p>次に(2) 歩行者の安全確保及び自転車の安全利用の推進についてです。交通事故死者に占める歩行者及び自転車の割合はほぼ毎年半数を超えています。歩行者及び自転車は、交通事故被害に遭うと衝撃を直接受けることから重傷化しやすい傾向にあり、歩行者及び自転車の交通事故防止対策が交通事故死者の減少に直結すると考えています。</p> <p>そのため、横断歩行者の保護や、自転車の安全利用、そして歩行者及び自転車利用者が自ら交通ルールを守り、交通事故被害に遭わないような啓発が必要です。</p> <p>続いて(3) シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底についてです。警察庁と日本自動車連盟の合同調査によると、運転席及び助手席のシートベルト着用率は高い水準で推移しているものの、後部座席におけるシートベルトの着用が徹底されていないほか、チャイルドシートの使用率も、年々上昇はしているものの徹底されていない状況となっております。</p> <p>シートベルトの着用については、一定の成果をあげていると思いますが、今後も後部座席のシートベルト着用、チャイルドシートの正しい使用について、継続</p>
--	--

的な啓発活動が必要です。

最後に、(4) 飲酒運転の根絶についてです。

飲酒運転による交通事故は減少傾向にありますが、飲酒運転は、死亡事故やひき逃げ事件等重大事件に発展する恐れがある大変悪質で危険な犯罪です。

今後もあらゆる機会を通じて飲酒運転根絶に向けた取組が必要です。

このように、第11次新潟市交通安全計画は、年間の交通事故死者数、重傷者数の目標を達成し、交通事故発生件数等も減少傾向にあり一定の成果を上げることができたと考えております。

しかしながら、交通事故死者に占める高齢者の割合は半数以上であることや、高齢者事故が全事故の約4割を占めていること、交通事故死者に占める歩行者・自転車の割合が高いこと等、現状を踏まえると引き続き各種交通安全施策を積極的に取り組む必要があります。新潟市全体で交通安全の気運を高め、安心・安全な新潟市の実現を目指してまいりたいと考えております。

□ 議長 (市民生活部 部長 斉藤 淑子)

今ほど、事務局より説明がありましたが、ご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。

(質問等はなし)

それでは、続いて「第12次新潟市交通安全計画(案)について」事務局より説明をお願いします。

□ 事務局 (市民生活課 安心・安全推進室 主査 小山 勉)

第12次新潟市交通安全計画(案)について、ご説明いたします。

はじめに、計画案に対する市民意見の募集、いわゆるパブリックコメントの結果について、説明いたします。

資料5をご覧ください。

資料5は、計画案に対する市民からのご意見と本市の考え方をまとめたものとなります。

パブリックコメントは1月15日から2月13日まで実施し、全部で12件のご意見が寄せられました。

寄せられたご意見としては、計画全体的なことに対しては、本市の事故発生状況を様々な視点から、さらに詳細な分析に基づいて本市独自の計画を策定すべきである、計画の課題と目標の評価について、中間指標を用いた定量的評価の導入すべきといったものでありました。

また、道路交通環境の整備の分野では、ユニバーサルデザイン化、無電柱化、歩道整備などについて現状の可視化についてのご意見が寄せられました。

これらのご意見に対しては、本計画は基本的な考え方や総合的施策を定めたものとなっていることから、ご意見を参考に単年度の実施計画に反映させていくこととします。

ご意見に基づいて計画案修正を加えるものについて説明をさせていただくと、No.8の運転免許の返納支援に関して、具体的な支援を明記すべきという趣旨のもので、これについては、免許返納者に対して本市で行っている支援について明記します。

続いて、No.9の雪国・新潟市としての冬季間の安全対策については、ご意見を踏まえて冬期間特有の安全確保についてハード・ソフト面の取り組みを記載します。

パブリックコメントに基づく修正は以上の2件となります。

続いて、11月に開催した前回の会議でお示した計画中間案からの主な変更点についてご説明します。

資料は資料7-1と資料6をご覧ください。

資料の7-2には、11次計画からの変更点をまとめたものとなっておりますのでご参考としてください。

それでは、資料7-1、計画中間案からの「主な変更点」についてご説明いたします。

資料は、左側から、今回お示しする最終案のページ、最終案における内容、続いて、中間案の内容となっており、一番右側が担当課について記載しています。

それでは、資料7-1上から順に説明いたします。

計画案の3～8ページ、交通事故の推移と現状について、交通事故発生状況や令和7年の実績値を更新しております。ご確認ください。

次に、9～14ページ、交通安全計画における課題と目標です。

これについても数値について令和7年の数値を更新しております。

また、14ページの目標値については中間案では期間中の交通事故死者数を60人以下、平均で年間12人としておりましたが、令和7年の実績値が確定し、11次期間中の事故死者数は58人、年間平均で11.6人となることから、12次期間中の交通事故死者数を55人以下、年間死者数11人と修正しております。

次に、24ページ、道路交通環境の整備について、パブリックコメントを受けて冬期間の安全対策を新たに記載しております。

本市で行っております、冬季の道路交通の確保として、効率的な除排雪の実施、関係機関との協力体制の確立、情報提供の充実について記載しております。

続いて資料7-1は、裏面2ページに移りまして、計画案の31ページ、特定小型原動機付自転車をはじめとする小型モビリティ安全対策の推進について修正しています。これは、県の第12次新潟県交通安全計画案に基づき、本市においても小型モビリティ安全対策の推進について追記しました。

最後は、計画案33ページの高齢運転者対策の推進についてになります。

パブリックコメントを受けて、免許返納後の支援事業について修正しており、

支援について具体的に明記しました。
主な変更点について、以上となります。
これで事務局から第1 2次新潟市交通安全計画の説明はおわります

□ 議長（市民生活部 部長 斉藤 淑子）

ありがとうございました。
今ほど、事務局より説明がありましたが、ご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。

せっかくの機会でございますので、民間団体の7号委員、特別委員の皆様には、日頃の活動状況等を含め、交通安全計画に関するお考えなどあればお聞かせいただきたく存じます。

新潟県交通安全協会仙田委員から順にお願いいたします。

□ 新潟県交通安全協会 仙田 嘉昭 委員

新潟県交通安全協会専務理事の仙田です。皆様方には日頃から、当協会の活動に対しまして、ご理解、ご支援をいただいております。大変ありがとうございます。

まず、高齢者の事故防止対策ということで、今年度、県との共催で実施したいいききクラブチャレンジ 100 について、ご説明をいたします。これは6 5歳以上の方で5人1組でチームを組み、昨年9月から12月までの100日間、交通事故に遭わない、違反をしないことを宣言をして参加する運動であります。

昨年は3,000を超えるチームの参加があり、15,000人以上の方から参加をいただきました。

結果については、無事故、無違反の達成率で、98.8%と非常に高い達成率でありました。この施策に交通安全について意識を高く参加していただき、効果的であったと感じております。ちなみ、無事故、無違反を達成したチームには抽選で商品等のプレゼントもあります。

高齢者の交通事故防止施策として毎年実施しております。

この他にも、それぞれ関係機関、団体の皆さま方からご協力をいただいて、様々な交通事故防止施策に取り組んでおります。

その中の一つとして、JA共済様から、ランドセルカバーのご寄付いただいております。本年度もご寄付をいただいております、今年新たに入学して通学を始める新1年生に配布し、登下校時の事故防止等の活動にご支援をいただいております。

また、保険会社などの民間企業様からも、春の交通安全運動に合わせて、パンフレットをご寄贈いただいております。まもなく始まる新学期に合わせて、有効活用して、交通安全活動の啓発などに取り組んでまいります。

関係機関、団体の皆さま方からいろいろご支援をいただいております、交通事故防止に取り組んでいるということで、紹介をさせていただきました。

□ 日本自動車連盟新潟支部 鈴木 健二郎 委員

JAF新潟支部の鈴木でございます。

平素より弊社の諸活動にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、本会議、今年3回目ということで、事務局の皆さん非常に大変だったと思います。ありがとうございます。

昨今話題にあった横断歩道の停止率、シートベルトの着用率、これについては関係団体の皆様のご協力もありまして、県民市民の皆様に意識が向上したということで非常に数値が向上してきております。

しかしながら、議題にも出ておりましたけども、高齢者の事故防止についてはなかなか数値が全国的な話ですけれども、低くなっていないというところで、私どもも非常に危惧している課題であります。

言葉を選ばずに話をさせていただきますと、高齢者の方は、若い方と比べると人の言うことを聞いてくれない、安全運転してくださいと言ってもなかなか聞いていただけないというところが多々見られます。私どもで、年に1回運転免許センターをお借りして、シニア向けのドライバーズセミナーで実車を使った交通安全教室を行っております。

それに参加していただく高齢者の方は非常にやはり交通安全意識の高い方がいらっやっていますので、そういった方に交通安全の意識をさらに高めていただいて、高齢者の方から高齢者の方にお話をさせていただくことで、横のつながりで交通安全に対する意識が広がっていけばいいなと思っております。

また、若い方と違って、やっぱりインターネット、SNSを見ていただけないというところもありますので、SNSを通じて交通安全の啓発をしてもなかなか届きづらいというところがありますので、地域の輪と言いますか横のつながりで少しずつでもそういった意識が広がっていけばいいなと考えております。

今後も、私どもは一件でも事故が減るような活動を皆様とご協力して続けてまいりますので、今後ともよろしくお願いをいたします。

□ エフエムラジオ新潟 上村 知世 委員

エフエムラジオ新潟の上村と申します。まず、初めにこの新潟市交通安全計画について、分かりやすく資料をまとめていただいてありがとうございました。

事前に会議に先立って、事務局の方にも会社に来ていただいて、その時にもお話しもさせていただきましたが、弊社ではもう1時間に1回ぐらいは必ず交通安全の呼びかけを各生放送中に行っております。

去年はちょうど今の時期にストップ横断歩道というキャンペーンをやりましたが、今年は実施が難しく、キャンペーンが実施できませんでした。

ただ、次年度も毎年10、11月に行っている早めにライトオンというキャンペーンを実施しようと考えています。

高齢者の交通事故がなかなか減らないというのが数字を見て、私も印象に残っていて、ラジオでの呼びかけの参考にさせていただければと思うのですが、高齢者の方の事故について調査をどこまでされているかというところです。

その高齢者の方が亡くなった方も含め事故に関わっている方が同居家族がいる高齢者なのかとか、認知症を持たれているのかとか、そういった細かい分析があるのであれば教えていただくと、ラジオを通じて呼びかける際に、言葉の選び方であったり、言葉のかけ方が変わってくると思うので、そういったことを把握されているのであれば、すごく参考になるかなと思っています。

また、4月からは自転車の青切符による取締りもスタートするというので、どれぐらい取り締りがあるのかなというところも気になっているところでもあります。

私どもとしては、ラジオで毎日生放送していますので、その時期にあった呼びかけを今後も続けていきますので、ご協力いただければと思います。

□ 新潟大学 村山 敏夫 委員

この交通安全対策会議の仲間に入れていただいて、本当に良かったと感じているところがあります。JAFの皆さま、鈴木様含め、所長の吉田様とは、先日も学生向けに講習会を開いていただいて、大学まで足を運んでいただいたり、あとは一緒にいろんな調査をするきっかけを与えていただいたのがこの会議でした。

そして、エフエム新潟様とは、今年度の春、上中下越のイオンにいて、JAFの皆様ともですが、キャンペーンステッカーを配るとか、そういったこともさせていただいたきっかけをいただいたのも、この会議からでした。

なので、私はこういった資料を作っていただいて、こういったことを報告いただくのも大切とは思っていますし、それよりもこういうつながりを作っていただけたということはすごく感謝しています。

これこそがこういった時間を作っていただいた意義になっていると思っています。そして、新潟県警の皆さまとは今年で10年、一緒に交通安全活動に取り組んできています。

昨日も別の会議で一緒になり、10年という締めでまた大きな展開をしていこうという話しをしております。先ほどのご報告の中で、資料5の中でもいろいろな取り組み、どういった形で情報発信していったらいいのかなということもありましたが、私は昨日県警の方とお話ししていたのですが、電光掲示板で方言を使った発信が、それが非常に県外から来た人たちの目に入る、キャッチしてもらえるという事を聞きました。

県警の方々が考えて標語を作って、そしてそれを電光掲示板に投影してそれを見たいろんな人たちがネットでSNSにあげ、拡散して、それにいいねがついているということを知って、こういうやり方もあるのだというふうに驚いた次第であります。

ですので、いろんな視点で、いろんな考え方でやるのって大切だなと思っています。

引き続き、我々もこうやって取り組みを私も発信していきたいと思っています。
今年度は内閣府交通安全フォーラムが富山で開催されて新潟県の取り組みを話してほしいということでお話しさせていただきました。

新潟県の取り組みというのは大切なこといっぱいされているなど、特に新潟市の取り組みは大切なことされているなどというふうに感じていますので、引き続きお願いしたいと思います。

□ **にいがた被害者支援センター 小林 ひとみ 委員**

今ほどいろいろな行政の方々や、もしくは民間の機関の方々の交通安全への取り組みお聞きしまして、本当に感謝しております。私も新潟被害者支援センターはそういった取り組みがあったにもかかわらず、不本意ながら被害に遭われた方々、被害者、もしくは被害者ご遺族の方の支援を行っている機関でございます。

交通事故の相談件数は年々増えておりまして、昨年に比べますと相談件数が2割弱増えております。実は本日の午前中も支援のため長岡まで行ってまいりました。

そういった中で弁護士相談、裁判の支援などを今後も引き続き取り組んでいきたいと思っております。また、新潟市からの助成を受けて、自助グループの開催を私どもの方で運営をしております。

年間6回運営をしております、昨年度の出席参加人数のご遺族の方々には6年度に比べ非常に増えております。

今後こういった活動を重点的に取り組んでまいります。

新潟市の助成に関しては非常に感謝しております。

今後も交通安全の取り組み、皆様方のご協力よろしくお願いいたします。

□ **新潟交通株式会社 渡辺 健 特別委員**

新潟交通乗合バス部の渡辺でございます。

弊社の路線バスの運行に際しまして、ご理解ご支援賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。

令和7年度の弊社乗合バス事業における有責事故統計について、前回の会議で少しお話をさせていただきましたが、年度の1年間の締めというところで簡単にご報告をさせていただきます。

夏までは前年と比較して25%ほど減少しているということをご報告させていただいておりましたが、今年度下半期、特に降雪期は昨年度のようなドカ雪はありませんでしたが、比較的気温が低い日が続いて、いわゆる除雪された雪がしばらく残るような状態ということもあり、12、1月と軽微な物損事故が少し増えております。

現在のところ前年と比較しますと20%減少ということで数値がでております。

弊社の有責事故の割合については、約9割以上が物損事故で、人身事故は1割

弱となっております。物損事故は、前年比の81%でした。人身事故は前年比の70%で、30パーセントほど減少はしております。人身事故は件数自体の母数が小さいということもありますので、全体の件数の割合でお話しさせていただくと前年比80%となっております。

弊社の取り組みとしては、前回も紹介いたしましたが、定期的に運転士の研修を実施しており、お客様にGがかからない運転の操作についてなどの講義を行っております。また、今年度は、運転免許センターのコースをお借りして、バスでS字クランクや狭い道路での切り返しなどの運転技術の向上という部分を重点に実施しました。以前は比較的技術の高い運転手をコンテスト形式で実施しておりましたが、今年度は比較的経験の浅いドライバーの運転技術研修という目的で講習を行っております。

そして、人身事故の1割弱はその半数以上が、バスの車内における車内転倒という事故の形態になります。

大きなバスが、ブレーキ操作で車両をバス停に止めるといった際は、大きな揺り戻しと言いますか、停止する直前にもう1回車体が揺れることがあります。

当然ながら発進操作でバス停から発進する際も揺れるので、車内転倒の恐れがあります。発進する際には、車内ミラー、左の側方を確認するサイドミラー、これを指さし確認するということを励行させております。

これは安全確認のために行う部分もありますが、指さし確認を行うことで発車するタイミングをワンテンポ遅らせ、車内のお客様が安定して座席に座る、つり革につかまる、握り棒につかまるという時間を設けるという意図で行っております。

定期的に運転手がしっかりと行っているかといった調査も行っており、車内の転倒事故防止に努めております。

また、お客様に関しては、最近のバス運転席の真後ろにモニターが付いているバスが少しずつ増えてまいりました。

こちらのモニターを使い、国土交通省で作成したバスが完全に止まってから席を立ててください、バスが動く時にはしっかりとつかまってくださいという内容の啓発の画像を流して啓発を行っております。

引き続き事故を1件でも減らせるよう、次年度も取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いをいたします。

□ 議長 (市民生活部 部長 斉藤 淑子)

どうもありがとうございました。

本当に皆さまからは高齢者などの安全対策ということで、様々取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

先ほど横のつながりで、啓発活動がより深みを増したというようなお話もあり、この場がそういう場になったというお話をいただき、大変うれしく思います。また、実際に被害にあった方のご支援にもご尽力いただいて、サポートして

	<p>いただいていること。</p> <p>それから、新潟交通の皆様には研修、そして乗客への啓発も含めて様々ご苦勞いただいていることに対して本当に感謝申し上げます。また引き続きの取組をお願いしたいと思っております。</p> <p>せっかくのこういう機会ですので、民間団体の皆様とまた行政我々などが連携する場になるといいなと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、計画についてご質問等がなければ、皆様からの拍手をもって第12次新潟市交通安全計画を決定したいと思います。</p> <p>本日、ご欠席の国や県の機関の方には、事前に了承を頂いておりますことを申し添えます。</p> <p>それでは、第12次新潟市交通安全計画についてご承認いただける方は拍手をお願いいたします。</p> <p>多数の方からご承認を頂きましたので、これをもって第12次新潟市交通安全計画を決定いたします。</p> <p>今後、本計画は新潟市ホームページ等で公開し、これに基づいて今後5年間の交通安全施策を進めてまいります。</p> <p>本日は、スムーズな進行にご協力いただきましてありがとうございます。</p> <p>市内の交通事故の発生状況については、今年に入り、4名の尊い命が失われています。</p> <p>本市では、次の死亡事故を1件も起こさせないという意識のもと、今後も各種施策、活動を実施してまいりますので、今後も皆さま、それぞれのお立場でご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします</p> <p>□ 事務局（市民生活課 安心・安全推進室 室長 吉井 崇）</p> <p>皆さま、大変有意義な会議をありがとうございました。</p> <p>令和3年度から5年間に渡り、第11次新潟市交通安全計画の推進にご理解、ご協力を賜りましたこと深く感謝申し上げます。</p> <p>引き続き第12次計画の円滑な推進にあたり、皆さまのご協力をお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、「令和7年度 第3回 新潟市交通安全対策会議」を閉会いたします。</p>
報道機関	無し
傍聴者	無し